

日本災害看護学会先遣隊 令和元年台風第 19 号における活動報告

東北地区：福島いわき市

活動メンバー：白井千津、太田晴美、窪田直美

1. 活動日時

令和元年 10 月 14 日（月・祝）9:30～21:00

2. 活動場所：福島県（いわき市）

3. 活動目的：先遣隊活動

4. 令和元年台風第 19 号の気象状況（気象庁情報）

- ・ 10 月 6 日 3 時に発生した台風第 19 号は非常に強い勢力を保ったまま、12 日 19 時前に伊豆半島に上陸し、13 日 12 時に北海道の南東海上で温帯低気圧に変わった。
- ・ 台風周辺及び台風本体の雨雲がかかり、東北地方の太平洋側で激しい雨となっており、総降水量は、神奈川県で 1,000 ミリを超えたほか、静岡県で 700 ミリ、埼玉県、東京都、宮城県で 600 ミリ、山梨県、栃木県で 500 ミリを超えるなど各地で記録的な大雨となった。
- ・ 関東甲信地方から東北地方の太平洋側では、沿岸を中心に猛烈な風が吹き、記録的な暴風となった所があり、東北地方の太平洋側では、うねりを伴い猛烈なしけとなった。

5. 調査地区の特性

- ・ いわき市は、福島県の東南端、茨城県と境を接する、広大な面積を持つまちで、東は太平洋に面しているため、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域。
- ・ 地形は、西方の阿武隈高地（標高 500 から 700 メートル）から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成し、夏井川や鮫川を中心とした河川が市域を貫流し、太平洋に注いでいる。
- ・ 人口は 340,205 人、世帯数は 143,699 世帯、いわき市の高齢化率は平成 27 年時点で 28%程度となっている。

6. 活動場所いわき市の被害の概要

- ・ 福島県は 12 日 15 時 30 分に特別警報が発令された。
- ・ いわき市の夏井川、新川の氾濫により、平、平窪、赤井、好間地区、小川地区に 5 箇所の浸水被害があったとのこと。
- ・ 2019 年 10 月 14 日にいわき市で開設している避難所は計 8 箇所で、平地区（中央台公民館）、内郷地区（高坂小学校体育館、内郷第一中学校体育館、内郷コミュニティセンター）、小川地区（小川小学校）、好間地区（好間中学校、好間公民館）田人地区（田人ふれあい館屋内運動場）であった。
- ・ 平浄水場の被災により一部地区で断水があり、いわき市水道局で給水活動が行われているが、近くの道には長蛇の車列があった。
- ・ 市民からの情報からも、現時点での問題は断水、災害ゴミが重要な課題となっている。
- ・ 今後、在宅に戻った方の床上浸水家屋への健康チェックのための戸別訪問に時間を要するため、ニーズが出てくると見込み。電気は不安定な箇所があるが、ほぼ復旧している状況とのこと。

7. 活動の概要

各自、事前にテレビやインターネットで避難所の状況、氾濫した河川の状況について情報収集した。報道が多くされている阿武隈川氾濫被災地の本宮等には支援者が多く集結していることや、活動日の天候状況によるリスク状況も予測されたことから常磐道でのアクセスをとし、東日本大震災でのつながりのあるいわき保健所での活動を選択した。出発前に福島県の災害対策本部と看護協会に電話をし、いわき市での先遣隊活動の旨を伝えた。まずは、いわき保健所長と連絡し訪問した。保健所で被害状況、住民や支援者の状況について情報収集した。冠水した一部支部への訪問と物資運搬の依頼があったが、様々な状況から先方と協議の結果で取りやめとした。さらに、受援管理の必要性から、保健所担当者から電話連絡した上でいわき市災害対策本部に訪問し、地域の被害・保健の状況について情報収集を行った。その後、ある一部の地域の周辺を視察することを試みたが、渋滞（2 km/1 時間程度）、天候不良（雨による）、日没となったことから仙台に戻ることもとなった。

8. 活動の実際

日時	行動	内容
9:30	福島県県庁災害対策本部への連絡	いわき市へ先遣隊として活動することを報告。
9:45	福島県看護協会への連絡	いわき市への先遣隊として活動することを報告。
11:00		<ul style="list-style-type: none">・ 南相馬鹿島 SA、四倉 PA トイレは全て断水で、簡易トイレか、汲み水の対応となっており、食堂は営業していないか、縮小して営業されていた。
13:50	いわき保健所にて所長・保健師面談	<ul style="list-style-type: none">・ 福島県は阿武隈川や吉田川による浸水被害が大きい、小さな川も越水し各所で浸水被害が出ている。・ 夏井川、新川での氾濫で、数時間のうちに泥水が一気に流れてきた状況であった。北側のエリアで被害が大きいとのことであった。・ 本日、保健所には数時間前に DMAT が来訪した。周辺医療センターに在中して EMIS を活用して医療機関の断水状況を確認し、給水設備の手配を担当しているとのこと。今週中には DPAT が活動する予定とのこと。・ 東日本大震災の時よりは良いと話しながら、保健所は急に浸水してずぶ濡れになった方への対応等も緊急で行ったことを説明された。・ 保健所では小川地区エリアで浸水被害があり、支所で 1 階全て浸水した。担当保健師は 2 名だが、車も全て浸水して動かない状況で帰宅できていない。

- ・ 一人の保健師は自宅も浸水し、被災後に家に一度も帰宅できていない。現在は、交代要員もおらず、かなり疲弊している。
- ・ 車がなく帰宅できないもう一人の保健師は近くの退職職員の家に泊めてもらい活動しているとのこと。
- ・ 小川地区では特に泥被害がひどい状況で、避難所で気になった人もいるが、支所が浸水しパソコンもプリンターも使用できず、記録もままならない。
- ・ 精神保健系の担当者から小川地区の住宅地図のコピーや持参して欲しい物資のリスト等（創傷処置が多く、イソジン等の消毒薬）の要望があった。
- ・ 小学校や中学校も校庭がドロドロで教育員会が今後対応していくとのことであった。
- ・ 小川小学校の避難所では3世帯10名ほどの避難者がいるが、精神疾患等ハイリスク者の対応はない。急な対応については昨日23時頃にあったが、問題なく対応できていたとのこと。
- ・ これからの問題は、通常業務と浸水地域の被災者への対応等が重なり、対応が困難となることが予測されるところであった。さらに保健師は疲弊していくため、対応が必要と話されていた。

15:00 いわき市役所災害
対策本部受援管理
担当者訪問・面談

- ・ 学会としての先遣隊の趣旨を説明し、訪問の目的を説明した。
- ・ 初めに対応された担当者から、いわき市の被害状況を説明。
- ・ 夏井川周辺の住民が13日1時から3時の間に急な浸水による被害が発生したため、すぐに助けに来てくれとの連絡もあった状況。
- ・ 14日現在は自衛隊や消防などで救出している状況で、救助要請への対応もある。
- ・ 現段階では被害状況を把握している状況であり、断水状況がひどく、停電状況はほぼ復旧しているが一部支障がある状況、災害ゴミへの対応の要望が来ているが、浸水被害に遭われている方への対応を優先している。
- ・ 住民のニーズは現在吸い上げている状況で、全容が解明するのは今週いっぱいかかる可能性があるとのこと。
- ・ 住民は浸水で一刻を争う状況があった後で、今は今後の生活への不安でいっぱいになっている状況である。
- ・ 床上浸水でお金をどうしたらいいか、体調も悪くなって、避難所から自宅に戻っても途方に暮れている状況である。そのため、住民の安心への

対応をしていく必要がある。

- ・ 今後、床上浸水被害宅の戸別訪問等には人員が必要となってくるので、人員派遣のニーズがあればと要請について検討もありかとのニュアンスで説明があった。
- ・ その後、責任者との面談。
- ・ 「まだ始まったばかりで・・・」との言葉あり、被害の全容が分かっていない状況であることを話された。
- ・ 今後、床上・床下浸水がある中で、床上浸水宅を中心に戸別訪問の必要性が出てくる。
- ・ 保健師も現段階では8箇所の避難所を巡回しており、現段階ではニーズの絞り出しを行なっている状況である。
- ・ 東日本大震災の時とは違うので、何かあれば病院に連れて行けば良い状況であり、今後、健康調査と一緒に関わって頂ければ…とし、現段階では支援は必要ないとのことであった。

15:30 いわき市保健福祉
部健康づくり推進
課課長との面談

- ・ 今回の被害は広域で、ルートが分断されている。ある地域では孤立状態となっている。
- ・ 職員も元々少ない配置状況で、保健師だけではなく他の市職員の自宅も浸水被害がある。
- ・ 平地区の浄水場の被災で断水している状況。
- ・ 昨日暗くなる前に避難所も集約した。保健師は避難所を巡回している。
- ・ 今後は自宅に戻られた方の床上浸水の方の健康調査の必要性が出てくるとのこと。
- ・ 現在も全体像がつかめていない状況で、メッシュで全体を把握してニーズを抽出していく。行政の先遣隊が入った後に保健師が活動する。その後、いわき市南の応援体制で対応していく。
- ・ 現在は事前調査に動いている。
- ・ 明日からは班を編成し交替していく予定になっているとのこと。今は頑張っている状況を支援していく形となっている。
- ・ 今後、災害対応と並行して通常対応もしているが、パンク状況ではないことを話され、現段階では支援の要望はないとのことであった。

15:50

- ・ 市役所周辺にて、いわき市水道局の給水所に向かって長い車の行列がり、渋滞している状況もあった。

16:00

- ・ 渋滞地区を抜けていく一部の道の両側には粘土状の泥が堆積しており、1メートルくらいの浸水被害があったような様子が伺えた。

9.課題

- ・ いわき市は、地域の保健・医療・福祉関連では、被害状況は現段階では全容が解明されていない状況ではあるが、現段階では外部支援者が必要な状況ではないと判断されている。しかし、今後、住民が床上浸水、床下浸水の方への健康調査の戸別訪問等の需要が増加すると推測される。
- ・ 支所の保健師活動の現場では現場の悲惨さから後方支援を求めている状況であるが、本庁では多忙であり災害超急性期のため情報把握が十分できる状況ではないため、現場支援については中長期に依頼したい旨を伝えられた状況から、現場と本部のタイムラグがあるとも考えられる。
- ・ 災害対策本部では外部支援が入っている様子はなかったが、社会福祉協議会への訪問はできなかったものの、浸水被害があった住宅への泥出し等の一般ボランティアの需要は増加すると考える。
- ・ いわき市では局所災害ではあるが、全国レベルではかなり広域な被害となっており、本日激甚災害に指定されるほど大きな災害となった状況である。被災地の保健活動は通常業務と並行して災害対応業務が負担となることが予測され、長期化すれば支援者の疲弊が蓄積し、心身の不調や離職に繋がる可能性も示唆される。県内の災害支援ナース等の活用も視野に入れて、災害時だからこそ保健・医療・福祉関係者が協働し、お互いの業務理解を深め、在宅医療が推進される中、平時の地域包括ケアシステムの強化にもなるのではないかと考える。
- ・ 医療機関においても断水状況を DMAT と協働して給水設備等の手配を依頼しているとのことである。医療機関は現段階では救急対応とも行えており、支障はないとのことであるが、病院職員等の被災も考えられ、通勤等にも支障がある可能性があり、組織内、地域内での支援も必要性があると予測される。
- ・ 避難所は今後集約される地域もあるが、長期化する避難所や要配慮者や被害が大きかった住民の対応を継続して実施していく必要がある。保健師と協働し、保健師を支援しながら避難所生活をされている住民の生活支援、環境整備を中心に災害支援ナースの活用も検討し看護師も活動していく必要があると考える。

10.15日の活動予定

- ・ 大郷避難所での夜間見守り活動

以上